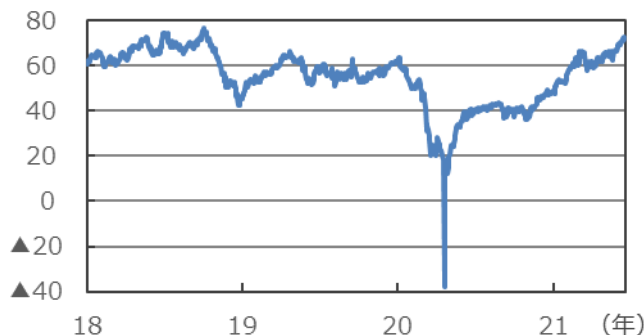


今日のトピック 原油価格は需要拡大期待、供給抑制懸念から上昇 需要拡大の一方で地政学、環境問題が供給を抑制

ポイント1 原油は2018年以來の高値 経済再開に伴い原油需要は堅調

- 北米の代表的な原油指標であるWTI（ウエスト・テキサス・インターメディアート）先物価格は上昇基調を続け、6月16日には1バレル=72ドルを超え、2018年以來の高値となりました。
- 新型コロナワクチン接種の進展により経済活動が正常化に向かい、原油の需要回復期待が強まっています。石油輸出国機構（OPEC）によると、2021年の世界の原油需要は2020年から600万バレル増加すると見込まれています。

【WTI原油価格】
(ドル/バレル)



(注) データは2018年1月1日～2021年6月21日。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 エネルギー投資減少、 中東問題が供給を抑制へ

- また、供給への懸念も高まっています。国際エネルギー機関（IEA）は5月18日、2050年のカーボンニュートラル（二酸化炭素ネット排出量ゼロ）を実現するため、今後の石炭及び石油・ガスの新規開発停止を含む行程表を発表しました。
- イランでは6月18日に行われた大統領選挙で、反米保守強硬派と言われるライシ司法府代表が勝利しました。ライシ氏は米国の個人制裁の対象となっていることから、バイデン政権との間で行われている核合意への復帰交渉はさらなる難航が予想されます。イランから国際社会に向けての原油輸出再開はめどが立たない状況です。

【世界の原油需給見通し】

	2019年	2020年	2021年
世界需要	100.0	90.6	96.6
供給	100.0	93.6	96.6
非OPEC	70.6	67.9	68.9
OPEC	29.3	25.6	27.7
需給バランス	0.0	3.0	0.0

(注1) 需給バランス=供給-需要。単位は百万バレル（日量）。2021年6月時点。

(注2) 2019年は実績。2020年は実績見込み。2021年はOPECによる予想。ただし、2021年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。

(注3) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しない。

(出所) OPECのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 需要回復の中で供給が抑制され続ければ一段高も

- 中東の地政学リスクはくすぶったままです。また、IEAのレポートは強制力を伴うものではないものの、今後の化石燃料への投資が世界的に難しくなることを強く示唆する内容でした。
- こうした供給抑制要因が続く中で、経済正常化に伴う需要拡大が続けば、原油価格が一段高となる可能性があります。

ここもチェック! 2021年6月16日 複数の資産への投資時には『相関係数』に注目 2021年6月11日 最強の資産形成戦略を考える

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。